

博物館 Dictionary No.161

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

平常展示館2階13室の書跡について勉強してみよう。



五条大橋造立勧進帳

皆さんは、鴨川に架かっている五条の大橋を知っていますよね。これは、今から440年以上も前の永禄九年(1566)四月に或るお坊さんが中心となって五条の橋を架けるため人々の寄付を募ろうとして書かれた「勧進帳」、今でいえば趣意書ということになるでしょうか—残念ながら、これを書き写した人も誰かは明かではありませんが—。その時、五条の大橋は「然るに先年の洪水の刻、橋柱流れ落ち」(20・21行目)てしまい、鴨川を渡る人々は「裙(くん、はかまのすそ)を水に浸し」、「袖を浪に湿す」(21・22行目、写真2では1行目から3行目にかけて)状態であったことがわかります。そこで、或るお坊さんが中心となって寄付金を募り、橋を架けようとしたわけです。或るお坊さんとは、きっと清水寺に関係のあるお坊さんではないかと思います。どうしてかというと、五条の橋は清水寺にお参りするために渡るようなものですから。

さて、五条の大橋といえば、何といっても牛若丸と弁慶の話が有名ですよね。皆さんは、この「牛若丸」の歌を聞いたり、歌ったりしたことはありますか。

(1) 京の五条の橋の上

大の男の弁慶は
長い薙刀ふりあげて
牛若めがけて切りかかる

(2) 牛若丸は飛び退いて

持った扇を投げつけて
来い来い来いと欄干の
上へあがって手を叩く

(3) 前やうしろや右左

ここと思えば又あちら
燕のような早業に
おに鬼の弁慶あやまった
(唱歌、作詞・作曲者不明)

ただし、ここに歌われている五条の橋が架かっていた場所は、今の五条大橋のところでありません。というのは、現在の五条大橋の場所は、豊臣秀吉(1537-98)が方広寺大仏



写真2 平安城五条大橋造立勧進帳(巻末) 京都国立博物館蔵

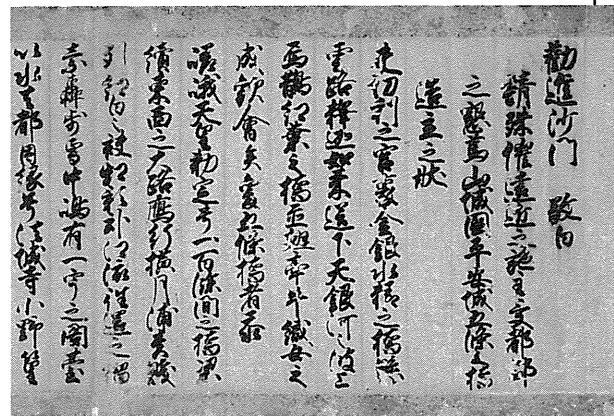


写真1 平安城五条大橋造立勧進帳(巻首) 京都国立博物館蔵

殿—博物館の北隣になります—を造るにあたって天正十七年(1589)に今の場所に移したもので、それ以前は今より一本北にある松原通の位置にあったのです。先にも少し述べましたが、もともと五条の橋は、清水寺にお参りするための橋であり、道—今でも松原通を東に行くと、清水道になっています—であったのですが、秀吉は自分が造った大仏殿に人々をお参りさせようとして一本南に移したのです。

ですから、今の勧進帳に出てくるのも、松原通に架かる橋ということになります。この勧進帳を見ると、ちょっとおもしろいことが書かれています。12行目から13行目(写真1、後から2行目・1行目)を見てください。そこには「中の島に一字の閣台あり、水、都を去る因縁をもって法城寺と号す」とありますから、五条あたりの鴨川に中の島、つまり中州のようなものがあり、そこにお寺があったことがわかります。そのお寺の名前がおもしろい。「水(サンズイ)去って、土と成る」お寺が「法城」寺なのです。「法城」のそれぞれの漢字をヘンヒツクリにわけると…、わかりましたか?

ついでですが、秀吉が造らせた五条大橋—今の五条通りのところに架けられた橋—の初代の橋脚と橋桁、すなわち天正十七年(1589)に架けられた橋脚と橋桁の現物をこの博物館で見ることができます。それは、博物館の西南の角のお庭に展示されており、立体的に組

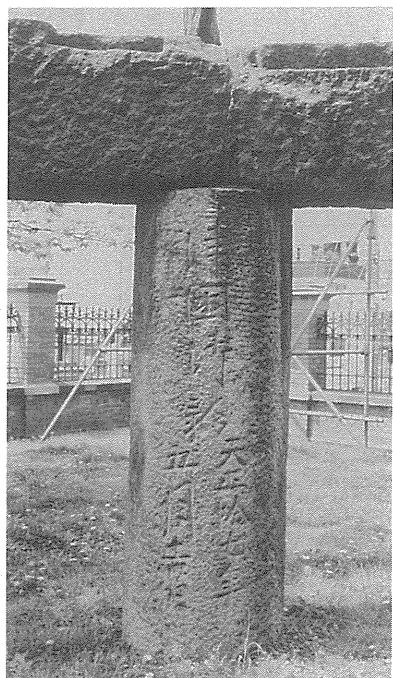


写真3 五条大橋橋脚・橋桁
京都国立博物館蔵

まれた橋脚と橋桁は当時の橋の大きさを想像するのに十分な迫力があります。また、その橋脚には「津国御影く天正拾七年／五月吉日」という文字が刻まれており、摂津国御影、現在の神戸市東灘区御影—背後の六甲山麓から採取される花こう岩、すなわち御影石の産地として有名—から運ばれたことがわかります。隣には同年七月付の三条大橋の橋脚も見ることができます。

(美術室 赤尾 栄慶)

